

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

インドはバブル！？

JSC 貿易部ニュース インド編

皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
さて、オリンピックイヤーの2020年がいよいよ始まりました！（^^）

準備に向けては色々とバタバタもございましたが、開催の年を迎え、遂に歴史的な瞬間に立ち会える事をととても楽しみにしております。

「失われた三十年」なんて言い方で日本経済の低迷を表現することもあります。東京オリンピックだけでなく、次は2025大阪万博もあります。こういったことを契機に日本の景気もどんどん良くなって欲しいなあ～と思います。

さて30年前と言えば平成が始まったばかり。日本はまだまだバブル経済に沸いておりました。

「おったまげ～」「しもしも～？」（笑）に代表されるバブル時代の言葉が、最近再流行しておりましたが、こちらインドでは別のバブル（泡）で大変な事になり、冗談抜きで「おったまげ～」でございます。。。。。。。



タイトルの“インドのバブル”は経済のバブルではございません（^^;;）
この画像は、昨年撮影されたインド南東部チェンナイにある浜辺の様子。浜辺全体が真っ白な泡（バブル）で覆われています。日本でも冬の日本海などで「波の花」と呼ばれる海の中のプランクトンや海草の粘液が荒波にもまれ、泡立つ現象があるようですが

この泡は、残念な事に汚染問題が露呈したもので、洗剤の残留物に加え、他の排気物質が混ざったことにより出来た泡（バブル）のようです。この泡は近年続けて雨季に発生していますが昨年は特にひどかったようです。



子供たちは喜んでいるようですが、魚も死ぬくらいの汚染であり、人体の呼吸器系に影響が出るようなので、本来は近づいてはいけないものです(^_^;;

インドでは大都市でも汚水の 40%しか下水処理されておらず、残りは海に流し放題なのでこのような泡が発生しているようです。

12 年前の 2008 年、私自身、この浜辺にはチェンナイ中心街からカルサヌールという黒御影の丁場に行く途中寄ったことがあります。当時はこのような泡が出ていませんでした。

日本もそうでしたが、経済発展と共にどうしても公害問題が起きます。

一刻も早く法整備を進め、浄化設備も整えて、インドの人々の憩いの場となる綺麗な浜辺を取り戻して欲しいものです。

途上国においては、しばしば経済発展が優先されがちですが、やはり環境問題を放置したままでは、長い目で見て国のためになりません。環境問題対策にも力を入れながら経済発展も成し遂げて欲しいと思います。

そして、いつかインドでもオリンピックが開催されるようになればいいなと思います。(^^)

さて、今月の石のお話です。

昨年、クンナム丁場再開のお知らせをしましたが、おかげさまで多くのご注文を頂き順調にインドの協力工場で「本クンナム」製品を生産してきました。



価格的に魅力のある新石種も良いですがやはり石質において抜群の安心感と実績を誇るクンナムが、私は大好きです。

まさに大御所の貫禄でございます～！

インドの黒御影は、建ててからや時間が経ってからキズ等の問題が出る石もありますがクンナムは石に“滑らかさ”があり後々の不安が比較的ございません。

すでに定年退職された私の元上司は、1970 年台初頭からクンナム丁場を訪れておりました。

伺うと、「クンナム」は 1960 年代から日本市場に供給されていたとのこと。それほど長く日本の墓石市場で支持されているクンナムです。長く支持されるだけの理由は、やはり素材が良いからなのですね～。

「クンナム」という石が、1964 年の東京オリンピックから、この 2020 東京オリンピックまでの 50 年以上もの間、市場で支持されてきたかと思うと感慨深さを感じます。

しかも、長らく停止していた丁場がオリンピックを迎える直前に再開した事に不思議な縁を感じるのは私だけでしょうか(^)



洋墓、和墓ともに圧倒的存在感を発揮するクンナムです。まさに黒御影の王者の風格です。

2020 年、クンナムが日本市場で今まで以上に広く使われ黒御影の市場を席卷することを、オリンピック成功と共に祈りしております(^)

今月も、最後まで読んで頂き有難う御座いました。本年も変わらぬご指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

暖冬とは言え寒さが続きます。ご自愛くださいませ。(^)

2020/01/01